

第3 1回福井市ジュニア大使帰国報告書

31st Fukui Junior Ambassadors Report



派遣日程

2025/3/25 (火) -

2025/3/31 (月)

派遣都市

アメリカ カリフォルニア州 フラトン市

派遣テーマ

Making real connections between Fukui and Fullerton

も く じ

- | | | | |
|----|----------------|-----------|---------|
| 1. | ジュニア大使選考から派遣まで | ・ ・ ・ ・ ・ | P.2～4 |
| 2. | ジュニア大使・引率者名簿 | ・ ・ ・ ・ ・ | P. 5 |
| 3. | 派遣日程 | ・ ・ ・ ・ ・ | P. 6～10 |
| 4. | ジュニア大使 報告書 | ・ ・ ・ ・ ・ | P.11～21 |

1. ジュニア大使選考から派遣まで

○ 第1次選考会（作文）

日 時：令和6年12月14日（土）10：00～11：30

会 場：フェニックス・プラザ 3階 多目的ルーム

参加者：51名

参加校：16校

内 容：作文

テーマ「あなたが海外に興味を持ったエピソードと、ジュニア大使としての経験に期待していること」



○ 第1次選考委員会

日 時：令和6年12月23日（月）14：00～16：00

会 場：ふくい市民国際交流協会 会議室

選考委員：福井市商工労働部 観光文化スポーツ局観光振興課国際室 室長 今村 知美

ふくい市民国際交流協会 副会長 永岡 弥栄子

ふくい市民国際交流協会 副会長 鈴木 一美

ふくい市民国際交流協会 姉妹友好都市交流委員長 山崎 栄一

内 容：応募者51名から20名を選抜した。

○ 第2次選考会および選考委員会

日 時：令和7年1月11日（土）10：00～11：35

会 場：フェニックス・プラザ 4階 404号室

参加者：20名

参加校：11校

内 容：面接（5人1組）

応募者20名から10名を選抜した。



○ 任命式

日 時：令和7年1月25日（土）9：00～9：30

会 場：フェニックス・プラザ 3階 多目的ルーム



○ **研修会**

第1回 1月25日(土) 10:00~12:00 フェニックス・プラザ 多目的ルーム

- ・自己紹介
- ・フラトン市の紹介 — ファン・サンタマリア氏
- ・「福井市の紹介」担当決め



第2回 2月15日(土) 9:00~12:00 (大雪のため延期しての開催)

ふくい市民国際交流協会 会議室

- ・フラトン市について調べたことを発表
- ・スピーチ担当決め
- ・「福井市の紹介」スライド作成
- ・出し物決め



第3回 2月22日(土) 9:00~12:00 地域交流センター 活動室

- ・帰国報告会担当決め
- ・「福井市の紹介」スライド作成、英語添削
- ・派遣テーマ、ホームステイペア決め
- ・パフォーマンス練習



第3.5回(追加研修) 3月8日(土) 9:00~12:00 地域交流センター 活動室

- ・滞在中のスケジュールについて確認
- ・「福井市の紹介」リハーサル
- ・パフォーマンス練習



第4回 3月15日(土) 10:00~12:30 フェニックス・プラザ 多目的ルーム

- ・ジュニア大使 OB との意見交換会
- ・ホームステイで役立つ英会話講座 — フアン・サンタマリア氏
- ・パフォーマンス練習



○ **壮行式**

日 時：令和7年3月15日(土) 9:00~9:30

会 場：フェニックス・プラザ 3階 多目的ルーム



○ **派遣**

令和7年3月25日(火) ~31日(月) 5泊7日

2. ジュニア大使・引率者名簿

名前	性別	中学校名
あさひ こ こ 旭 瑚子	女	明道中学校
いしだ さ き 石田 咲妃	女	明道中学校
おくの か のん 奥野 楓音	女	大東中学校
かいどう ち はや 海道 知隼	男	成和中学校
きむら み りあ 木村 美里亜	女	明倫中学校
こばやし ほのか 小林 ほのか	女	進明中学校
しもかわ カノン 下川 カノン	女	北陸中学校
の せ みやび 野瀬 雅	女	足羽中学校
の むら そう た 野村 颯大	男	安居中学校
やまぐち ゆ う か 山口 優果	女	福井大学附属中学校

引率者

そうだ あ ゆ み 早田 有由美	福井市立木田小学校 教諭
らいまる ひろき 来丸 浩基	福井市商工労働部 観光文化スポーツ局観光振興課国際室
やはら あかね 八原 あかね	(公社) ふくい市民国際交流協会

3. 派遣日程

○ 3月25日(火)

- 8:30 福井駅東口 階段広場前集合
- 8:50 福井駅出発 小松空港へ
- 10:00 小松空港着、搭乗手続き
- 11:15 小松空港発(日本航空 186 便)
- 12:20 羽田空港着、国際線へ
- 17:20 羽田空港発(デルタ航空 6 便)

— 日付変更線 —

- 11:40 ロサンゼルス国際空港着
- 14:00 ロサンゼルス市内観光

サンタモニカ、ファーマーズマーケット、ハリウッドハイランド



- 17:30 Hard Rock Café Hollywood にて夕食



- 20:00 ホテル着

○ 3月26日(水)

8:00 ホテルにて朝食

9:20 ホテル出発

10:30 ロサンゼルス市内観光

ドジャースタジアムツアー、リトルトーキョー



13:00 IN-N-OUT Burger にて昼食

15:00 フラトン市到着

15:30 All the arts にてガラスアート体験



17:00 The Bowery にてホストファミリー、フラトン市 Jr 大使たちと夕食



20:00 ホストファミリーと帰宅

○ 3月27日(木)

8:00 Nicolas Junior High School 訪問

アートレッスン、福井市の紹介プレゼンテーション、

書道パフォーマンス、ダンスレッスン、ロボティクスレッスン



11:30 昼食

12:30 フラトン市役所訪問

13:45 警察署訪問

15:00 消防署訪問



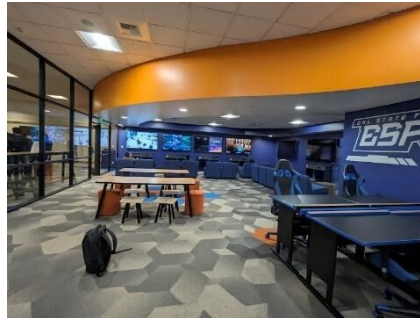
16:00 ホストファミリーと合流

○ 3月28日(金)

7:00 Panera Breadにて朝食



9:00 カリフォルニア州立大学フラトン校 (CSUF) キャンパスツアー



12:00 カフェテリアにて昼食

13:00 ボウリング



16:00 ホストファミリーと合流



○ 3月29日(土)

ホストファミリーと過ごす

○ 3月30日(日)

6:20 フラトン市出発



7:15 ロサンゼルス空港着

10:25 ロサンゼルス国際空港発(デルタ航空7便)

— 日付変更線 —



○ 3月31日(月)

14:15 羽田空港着

16:55 羽田空港発(日本航空189便)

18:30 小松空港着、福井駅へ

19:30 福井駅東口着



19:50 解散

4. ジュニア大使 報告書

ジュニア大使の思い出

明道中学校 旭 瑚子

私はジュニア大使として、フラトン市を訪問させていただきました。フラトン市に到着した直後は、上手にコミュニケーションがとれるか心配で緊張していましたが、現地の人たちは気さくで優しく、すぐに緊張がほぐれました。フラトン市での様々な活動を通して、多くのことを経験することができたので、その中でも特に印象に残ったことを三つ挙げます。

一つ目は、消防署の訪問です。アメリカの消防士さんは二日勤務して二日休みなので、消防署の中にたまった疲れをいやすリラックスする場所があり、家みたいだなと思いました。また、消防士さんが消防服を着るところを見せていただきましたが、着替えるスピードがとても速くて驚きました。最後に発表したダンスで消防士のみなさんがとても喜んでくれてうれしかったです。

二つ目は、アメリカの食事についてです。アメリカの食べ物は、全体的に大きくて甘めの味付けが印象的でした。特に初日に食べたお肉が印象に残っています。想像していたよりも数倍大きかったですが、がんばって完食することができました。また、どのお店でも店員さんがフレンドリーだったので、注文のやり取りも楽しかったです。

最後は、地元の学校を訪問したことです。中学校では福井市についてプレゼンテーションをする機会があり、私は福井の食べ物について英語で話しました。書道パフォーマンスをしたときのリアクションが大きく、楽しんでもらえたようで良かったです。また、訪問した大学の学食がバイキング形式でびっくりしました。さらに、大学の中にボーリング場があってうらやましかったです。

私のジュニア大使としての活動で、福井市の魅力がフラトン市の人たちに少しでも伝わったなら嬉しいです。また、フラトン市について私が知ったことをこれから周りの人に伝えていきたいと思います。今回の経験をこれからの生活に活かし、友好関係を築くきっかけにしたいです。



ジュニア大使を経験して学んだこと

明道中学校 石田 咲妃

私は、今回福井市のジュニア大使として1週間ロサンゼルス・フラトン市に滞在し、現地の沢山の人達と交流するという貴重な経験をしました。私にとって初めての海外滞在であり、見ること・感じること全てが新鮮でした。その中で、特に印象に残ったことが3つあります。

1 つめは、ドジャーススタジアムツアーに参加したことです。まずスタジアムの広さに圧倒されました。ドジャースの歴史を学び、VIP 席などの普段はなかなか入れないところで見学をすることができました。グラウンドでは山本由伸選手や佐々木朗希選手がウォーミングアップや練習をしている姿を生で見ることができて、とても感動しました。

2 つめは、ニコラス中学校を訪れたことです。ニコラス中学校ではアートクラスに参加して、丸い木材に絵の具で好きな絵を書きました。また、私たちからは福井についての紹介や書道パフォーマンスをしました。学校では、英語で話をしながら名刺交換をして沢山のひとと友達になれました。英語で話をするのは難しかったけど、ジェスチャーを使って笑顔で積極的に話しかければコミュニケーションが十分とれることを学びました。

3 つめはホストファミリーと過ごしたことです。はじめは不安と緊張もあったけど、ホストファミリーが優しく接してくれたので緊張はすぐにとれました。毎日、私たちをビーチやショッピングモール、日本食レストラン、子供のサッカー観戦など、色んなところに連れて行ってくれました。また、私たちが食べやすい食事を準備してくれました。私たちもお味噌汁を作って振舞いました。素敵なホストファミリーと出会えたおかげで、とても充実した滞在になりました。

今回の国際交流は、私にとって一生の宝物となりました。言葉で伝えるのは難しいかもしれませんが、積極的にコミュニケーションをとることで世界の色々な国の人達と言語の壁を越えて交流できると思っています。これからも、国際交流の機会があれば積極的に参加したいです。

このような機会を頂き、ありがとうございました。



フラトンでの派遣を終えて

大東中学校 奥野 楓音

私はこのジュニア大使でのホームステイや現地の中学生との交流を通してたくさんの経験をすることができました。今回は約1週間の生活の中で特に印象に残っていることを3つ紹介します。

1つ目は、日本の学校との違いです。私はカリフォルニア州立大学フラトン校を訪問しました。カリフォルニア州立大学フラトン校では、大学の中にボーリングやゲームセンターがあり一つの街のようになっているのに凄く驚きました。大学にはカフェテリアがありバイキングのように自分の食べたいものを食べれるようになっていて凄いなと思いました。

2つ目はお金の違いです。私は、買い物をして現金で支払うときにアメリカも日本も紙幣と硬貨が何種類ずつあるのは変わらないことに気づきました。しかし、アメリカは硬貨が6種類もあるので私はどの硬貨が5セントなのか見分けるのにとても苦労しました。日本では、現在新紙幣と旧紙幣の両方が使われています。私たち日本人がアメリカのお金を理解するのが難しいように日本に来た留学生や外国人は違いが分からないだろうと思いました。

3つ目は、ホームステイです。私は、初めてホストファミリーに会った時、緊張と不安でいっぱいでした。しかし、私が話している時に笑顔で聞いてくれて緊張はすぐに解けました。私のホストファミリーには、5歳と8歳の小さい女の子がいて土曜日には、一緒に買い物に行ったり、ビーチに行ったりとても貴重な時間を過ごすことができました。ホームステイ中には、英語でうまく伝わらなかったり、聞きとれなかったりすることもありました。そこで私は、伝わらなくても身振り・手振りを使ったり、自分の知っている単語を使って話そうとすることが大切だということを学ぶことができました。

私は、ジュニア大使としてアメリカに派遣させていただいて、福井の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたいという思いが芽生えました。今回得たたくさんの学びを 学校生活や福井の未来へとつなげていきたいなと思います。



私は、今回のジュニア大使としてフラトン市を訪問し、現地の多くの人々と交流をしました。この経験から得た学びは数えきれないほどありますが、特に印象深かった体験を3つ紹介します。

1つ目は、ロサンゼルス・ドジャーススタジアムツアーです。現在、大谷翔平選手などの日本人選手が活躍するメジャーリーグ・ドジャースの本拠地で、テレビでは伝わらない実際のスタジアムの大きさに圧倒され、世界のメジャーリーグのスケールの大きさを実感しました。この日の試合はありませんでしたが、外野ではなんと、山本由伸投手や佐々木朗希投手がキャッチボールをしていました。これには興奮して言葉が出ないほど感動し、自分が日本人であることを誇らしく感じました。

2つ目は、カリフォルニア州立大学フラトン校を訪問したことです。ここで私たちは、大学構内を見学したり日本語や美術を専攻としている大学生と交流したりしました。私ははじめは緊張していましたが、大学生と日本語や英語を交えて話していると、ゲームや映画など共通の趣味がたくさん見つかり、打ち解けることができました。また、構内にあるカフェテリアでの昼食バイキングやボウリングも一緒に楽しむこともでき、将来、海外の大学で学生生活を送ることも選択肢に入れてもよいなと感じました。

3つ目は、なんといってもホームステイの経験です。英語が通じるか不安でしたが、それぞれの国での暮らしや文化を尋ねあっているうちに、すぐに親しくなることができました。ホストファミリーは毎日私たちに優しく接してくださり、いろいろな場所へ連れて行ってくれました。私は特にサンタモニカのビーチへ行ったことが印象に残っています。よく晴れた日の海風が涼しい砂浜や冷たく美しい波の中を歩いたことは、今でも忘れられません。このような素晴らしい経験をさせてくださったホストファミリーに、私たちは感謝の気持ちを込めて手作りのおにぎりを作りました。とてもおいしいと言ってくださり、本当にうれしかったです。短い期間でしたが、かけがえのないたくさんの思い出を作ることができました。

今回の訪問を通して、私は、異なる暮らしや生活の中でも、勇気をもって積極的に交流することで、お互いを認め合い尊重することができることを実体験することができました。世界には様々な課題がありますが、すべての人々が共生と友好に心を寄せれば、解決に向かっていけると思います。この経験は、私の一生忘れられない7日間です。これからも、国際交流活動の機会があれば積極的に参加し、日本・福井の魅力を発信して広めていきたいと思っています。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



初の海外とジュニア大使での経験

足羽中学校 野瀬 雅

私はジュニア大使としてアメリカのフラント市の中学校や警察署などに訪問しました。そこで、学んだことや日本と違うなと思ったところを紹介します。

まず、特に印象に残っているのは中学校です。私たちはニコラス中学校という学校に行き、アートクラスやダンスクラス、プログラミングクラスに参加しました。その中で、日本と違うなと思ったところは2つあります。

1つ目は、プログラミングクラスです。プログラミングクラスでは、生徒が作ったロボットやドローンを操作しました。日本ではロボットやドローンを作る授業はないのでびっくりしました。

2つ目は、選択授業です。日本の中学校はほとんどが選択授業ではないと思います。でもアメリカでは決まったクラスはなく、受ける授業の教室に毎回移動していました。他にも違う点は沢山あってアメリカの中学校はこんな感じなんだと学びました。自分が学びたい授業を選びより深く学ぶと将来したいことが中学生のうちから定まるのではないかなと考えました。

次はホームステイについてです。私のステイ先には5歳と8歳の女の子がいました。その子たちとかくれんぼや英語の絵本の読み聞かせをしたりして家に帰ってもとても楽しく遊べました。私が驚いたことは5歳の子も小学校に通っているということです。日本だと6歳から小学1年生ですが、アメリカでは5歳から小学0年生として入学するそうです。

今回のジュニア大使の経験は私の人生において、とても貴重な体験になりました。初の海外ということもあり、不安でいっぱいでしたがホストファミリーやジュニア大使に協力してくださった方たちはとても親切に接してくれて緊張がほぐれました。感謝してもしきれないくらいです。この経験をこれからに活かし、またこのようなイベントに参加できるといいと思います。本当にありがとうございました。



フラトン市で学んだこと

明倫中学校 木村 美里亜

「もっと世界の人と交流して、繋がりたい」

これは私が今思っていることです。

会場に拍手と歓声が広がりました。私たちはニコラス中学校で福井市についてのプレゼンテーションとダンスを発表しました。なんと、福井市を知っている人は一人もいなかったのが驚きました。生徒達は私たちの発表を聞いてリアクションしてくれました。クイズを出した時は積極的に参加してくれてとても楽しかったです。はっきりした意見を持ったり、積極的に参加したりすることが大切だと思いました。

辺りが薄暗くなった頃、ホストファミリーの家に着きました。ホストファミリーと過ごした日々は宝物です。ホストブラザーと公園でおにごっこやサッカーをして遊びました。それまではお互いに緊張していたけれど、公園での遊びを通して仲良くなることができました。「遊び」は、人と人とが交流できて、コミュニケーションをとることができるすごいものだと感じました。その後、庭で夕食を食べました。ホストマザーの作ってくれたハンバーガーを食べた瞬間、「delicious！」と言ってしまいました。食事がおいしいという話からどんどん話題が広がり、にぎやかな雰囲気になりました。みんな笑顔で楽しかったです。「食事」は言葉が通じなくても繋がったり楽しめたりすることができるのだなと思いました。

私はジュニア大使を通して、「繋がること」の楽しさを学びました。実際に行ってみないと分からないこと、人と繋がらないとわからないことをたくさん学ぶことができました。また、この活動を通して、自分の課題を知ることもできました。例えば、英語でのコミュニケーション力や積極性などです。自分に足りない力をつけるために、毎日基礎英語を聞いたり、何事も自ら進んで挑戦していこうと思います。そして、国際交流に貢献できるようになりたいです。



ジュニア大使としての貴重な経験

進明中学校 小林 ほのか

私はジュニア大使として、多くの「初めて」を経験することができました。初めての飛行機、初めてのホームステイ、初めての海外、そして国外の人々との友好関係など、どれも私にとって特別な体験でした。

その中でも、特に心に残っている3つの出来事をご紹介します。

1つ目は、ホームステイの体験です。アメリカでホストファミリーと過ごす前は、「英語が通じるかな」「ご迷惑をおかけしないかな」ととても緊張していました。しかし、ホストファミリーは笑顔で私達を迎えてくださり、すぐに安心することができました。送迎をしてくださったたり、おいしい食事を用意してくださったりと、たくさんの暖かい心遣いに感謝しています。食事の時間には、お互いの趣味や、日本の家族や生活、音楽などについて楽しく会話をし、交流を深めることができました。短い時間ではありましたが、充実した素晴らしい日々でした。

2つ目はニコラス中学校での体験です。私は、アート、ダンス、プログラミングの各クラスに参加しました。どの授業も生徒が自分で選んで参加しており、皆さんがとても生き生きとしていたのが印象的でした。「日本の学校にも選択できる授業があったらいいのに」と感じる程、魅力的な学びの環境でした。また、私達は学校でプレゼンテーションと書道ダンスパフォーマンスも行いました。プレゼンテーションでは、英語で伝えることに苦戦しましたが、生徒が頷いてくれたり、クイズに積極的に参加してくれたりして嬉しかったです。書道ダンスでは、全員と一緒に盛り上がることができ、日本の文化の魅力を伝えられたと思います。終わった後には、「I LOVE JAPAN」と書かれた手紙をもらったり、お菓子や名刺を渡したりするなど交流も楽しむことができました。

3つ目は、アメリカの方々のフレンドリーな姿勢です。ホストファミリーと散歩をしている時、すれ違う人が知らない人でも挨拶をしたり、気さくに話しかけてくれたりする様子がとても新鮮でした。また、目が合った時にニコッと笑いかけてくれたり、「Cute」と声をかけてもらったりした時は、アメリカらしい雰囲気を感じ、とても嬉しかったです。そのような温かい交流のおかげで、多くの友達をつくることができました。

今回のジュニア大使としての経験を通して、私は「コミュニケーションの大切さ」を改めて実感しました。例え完璧な言葉でなくても、表情やジェスチャーで多くのことが伝わります。これからの生活でも、どんな形であれ「伝え合う心」を大切にしていきたいです。これからも国際交流の機会に積極的に参加し、日本と海外をつなぐ架け橋になれるよう努力していきたいです。



7 日間の経験を通して

北陸中学校 下川 カノン

私は、今回ジュニア大使としてアメリカのフラートン市を訪問し、現地に行かないと知ることのできないことをたくさん体験し、学ぶことが出来ました。

フラートン市で過ごした一週間の中で私が一番印象に残っているのは、ホストファミリーと過ごした時間です。アメリカに行く前は、楽しさ反面不安な気持ちがとても大きかったです。しかし、ホストファミリーは私たちを笑顔で迎え入れてくれたことで自然と不安な気持ちはなくなりました。

2 日目の放課後は、ホストファミリーと一緒に夕食を食べた後 1 時間程度散歩をしました。私がホームステイをした家の近くでは、24km もある自転車や、馬、散歩のコースがありました。そこで私は驚いたことがあります。それは、馬が通れるコースがあるということです。また信号機に馬のマークが描かれていていました。日本の信号機にはないものがありとても親近感が湧き、日本にはめったにみられない長いコースがみじかに体験できたのがとても良かったです。

ニコラス中学校では、プレゼンやダンス、書道の出し物をしました。プレゼンを発表しているときは真面目に見てくれたりダンス、書道のパフォーマンスをした時には手拍子を叩いてくれたり一緒に盛り上げてくれました。また、日本の授業にはない、ダンスやプログラミングの授業を体験することが出来ました。ダンスの授業では私が好きなジャンルのヒップホップのダンスだったので、みんなと楽しく踊ることが出来ました。ダンスは、言葉が通じなくても世界共通なんだなと思いました。

最後に私は、今回ジュニア大使として現地に行き、思ったことは、違う文化を体験することの大切さや楽しさだと考えます。今回体験したことや学んだことを、次の世代の人たちに伝承していき、国際交流をもっと活発にしていきたいです。そして、これからも国際交流の活動に積極的に参加し、なにごとにも恐れずチャレンジしていきたいです。



アメリカで学んだこと

安居中学校 野村 颯大

私は、今回のジュニア大使を通して多くのことを学び経験することができました。この経験から得た学びは数えきれないほどありますが、特に印象に残っていることが二つあります。

まず一つ目は、アメリカの家並みや造りについてです。飛行機から初めてロサンゼルス周辺の街並みを見ました。上空から見た景色は、私が予想していたものとは大きく異なり驚かされました。そこには碁盤の目のように縦と横が垂直に交わった道路がどこまでも続いていました。またその道に沿って家が規則正しく並べられていることにも驚かされました。次に、アメリカと福井の家の造りについて比較した視点が一つあります。その視点は「色」です。福井の家と比べるとアメリカの家はカラフルで、まるで私たちを出迎えてくれているようでした。このことから、アメリカの人々は個性を存分に発揮する人が多いのでは、と考察しました。色が明るいだけで人の心も明るくできてしまうのはすごいことだなと感じることができました。

二つ目は、食文化についてです。私は、アメリカの主食はパンだと思っていました。しかし、実際に生活していくとあちこちでチキンやファストフードが出てきたので、主食はそれらが中心だと感じました。また、アメリカでは絶対に出てこないと思っていた野菜がたくさん出てきました。このように、固定概念だけで決めつけるのではなく実際に体験することが大切だと学びました。質や量についてアメリカと日本の食文化の違いを改めて感じるすることができました。

今回の国際交流は、アメリカと日本の良さをそれぞれ感じることでできる素晴らしい経験となりました。今後、アメリカで得た貴重な経験や様々な学びをこれから多くの人々に伝えるだけでなく、福井だけの魅力や良さを発信し、将来は市役所で働き、福井を盛り上げたり国際交流の架け橋となれるよう、今後もいろいろな挑戦をしていきたいと思います。



貴重な7日間

福井大学教育学部附属義務教育学校 山口 優果

「外国行くの怖いな」。ジュニア大使になり派遣準備が進む中、私はそんなことをいつも考えていました。初めての海外ということもあり、親がいない7日間に心を弾ませる一方、知らない土地に行くことに言葉は通じるのかな、食べ物をしっかり食べられるかな、と不安もありました。国際的視野を広げるために今回の派遣事業に参加しましたが少なからずとも「外国」という壁が私の中ではあったのです。

そんな意識を変えることができたのは、現地の人々の優しさや温かさでした。レストランやマーケットなどを訪れた時は日本のように必要最低限の言葉を交わすのではなく、「美味しいですか?」「気に入りましたか?」などと、気軽に話しかけてくれました。ニコラス中学校に訪問した時も、名刺や日本のお菓子を渡すと笑顔で感謝を伝えてくれたり、多くの人が私たちに興味を持ってくれました。ホストファミリーと過ごす中でも、やりたいことや食べたいものを聞いてくれたりと私たちの意見を尊重してくれました。ホストファミリーに連れて行ってもらった湖では釣りをしている人に「今日は釣れそう?」と話しかけていていました。日本なら「なんで話しかけてきたんだ??」となりそうですが「釣れなさそうです」と和やかに会話していたのです。

この7日間は私を変えるには十分すぎる時間でした。「他者を知ることは自分自身の理解が深まる」昔、本に出てきた言葉がようやくわかったような気がします。他者を知ることで自分との共通点や相違点、新しい考え方に気づき、新しい視点を取り入れることができます。その“他者”と関わりが多く深いほど広い視野を持つことができるのではないかと思います。自分の感情をはっきりと言葉にするアメリカの人々は、分からなかったらもう一度聞き直してくれて私を知ろうとしてくれているということも伝わってきました。私は自分の考えや疑問を自分の中で留めておくことが時々ありましたが、そのせいで相手との思い違いがあったかもしれません。これからはしっかりとコミュニケーションをとっていきたいです。伝えたいことは言葉にして、新しく学んだことは吸収し成長していけるように頑張ります。ジュニア大使としての経験が、こんなにも楽しい思い出になるとは思いませんでした。フラトン市の魅力を知ることができ、福井市の新たな良さにも気づくことができました。本当に貴重な7日間になりました。ありがとうございました。

